

学校に笑顔を！家庭に安心を！地域に活力を！ 三者をつなぐ「豆ボラ神守」

愛知県津島市

活動名

神守中学校支援地域本部「豆ボラ神守」

関係する学校

神守中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 2人	子供の平均参加人数 20人	開始年度 22年度	国庫補助 無	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 105人	開始年度 22年度	国庫補助 有	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数		

活動の概要・経緯

- ・学校の荒れを立て直す目的で、保護者以外の地域の方々を校内に招き入れるために、PTAとは異なる組織の必要が生じたことから、学校支援地域本部を設立した。その結果、生活安全ボランティアの意欲的な声掛けが生徒の心の支えとなり、徐々に心の安定につながった。
- ・平成22年10月に発足し、2名のコーディネーターを中心に、当初は80名ほどのボランティア登録があった。
- ・物的・人的環境整備を中心とする学校側のニーズにより、図書室の環境整備や、学校に花と緑をもたらす環境整備からスタートした。図書室の蔵書のバーコード化や図書室の飾り付け、本の貸出し支援などにより、生徒の読書量が大きく増加した。
- ・毎年130名を超すボランティアの登録による、学習・図書・環境・生活・不登校支援・外国人支援など10の分野での支援により、確実に地域の教育力の向上、活性化に寄与している。年間活動日数は延べ約360日、延べ人数は約1300人となっている。コーディネーターの活動は、年間150日以上、計400時間の活動で支えられている。
- ・県内の多くの関係団体とも連携し、人材の派遣や活動の情報交換など、活動の活性化に役立てている。
- ・平成26年度から、市内の他の中学校区にも地域支援本部設立のために指導、支援を行い、平成27年度には市内の中学校区に地域支援本部が設立された。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・学校側のニーズにより、月曜日の放課後と土曜日の午前中に、希望する生徒を中心に、寺子屋（月テラ・ドテラ）と称し、年間各20～25回ほどの学習支援を実施している。不登校・発達障害・非行傾向の生徒なども参加し、大学生ボランティアとの交流から学習意欲が喚起され、大きな成果が出ている。
- ・生活安全支援では、津島少年補導員（5名）と連携し、月1回程度の校内巡回活動を実施している。校内で補導員と生徒が顔見知りになり、校外においてもコミュニケーションが取れることから、非行の抑止にもなっている。これらの活動に対し、愛知県警から表彰状を授与された。

【実施に当たっての工夫】

- ・2か月に1回、学校側のニーズの確認、情報の共有、運営上及び生徒指導上の問題点の話し合いの場として、本部長、コーディネーターを中心に豆ボラ神守実行委員会を開催し、多角的な視点から事業を運営している。
- ・年度始めと終わりに、それぞれの支援について学校側と連絡会を開催し、ボランティア・生徒・学校側の意見を聞き、可能なものはすぐに改善するなど、柔軟な運営を工夫している。

事業を実施して

- ・中学校の教育課題である「不登校生徒の増加」を食い止めることにつながった。平成20年頃まで毎年60名近い不登校生徒がいたが、全国平均以下に減少した。地域本部の目的である教職員の多忙化解消の一助になり、職員からも、精神的な授業改善や子供と関わる時間の増加による結果であると好評価を得ている。無償のボランティアに対する感謝の思いを教員本来の仕事である授業力向上に向け、「学びの授業」を全職員で推進している。
- ・学習ボランティアに参加する大学生は、ほとんどが教員志望者であり、退職教員とともに学校での学習支援を行うことで、教育実習以上の役割を果たしている。
- ・地域コミュニティからの中学生ボランティア募集依頼も毎回すぐに定員が埋まり、参加生徒もやりがいや充実感を実感している。生徒の自己有用感が高まると同時に、地域からも喜びの声や元気をもらったとのお礼が届く。
- ・登録ボランティアも、元気な中学生との活動により意気が上がり、活動に創意工夫が施され、良好な交流が見られる。



豆ボラ神守のホームページ

その他

- ・神守中学校区内の3小学校にも、学校のニーズに応じてボランティアを派遣している。
- ・県内外からの見学や視察が多く、また、県内他地区へ地域本部活動の講演会やプレゼンテーションの依頼があり、活動の方法・運営・効果・課題などについて助言をしている。
- ・支援を受けたり、地域へボランティアに出かけたりした中学生が大学へ入学し、今後は学生ボランティアとして中学生を支援するなど、地域と学校をつなぐ活動を更に広げたい。
- ・徐々に世代交代をしながら、息の長い支援活動が継続できるような組織を運営していきたい。



ドテラ（土曜寺子屋）